

目指すべき将来像

「世界一の都市・東京」にふさわしい「世界一の交通体系」

概ね20年後の交通インフラを想定し、様々な人々がそれを使いこなして移動する姿

海外出張者や外国人来訪者が迷わずスムーズに移動できる交通体系

(国際競争力)

- 空港への様々な交通手段が状況に応じ利用可能
- 案内表記の多言語対応やWi-Fi利用環境が充実

通勤通学者や子育て世代など誰にとっても快適で便利な交通体系

(快適・便利)

- 新駅整備やターミナル再編等により混雑が緩和
- サインがわかりやすい、雨に濡れないなど、鉄道とバスの乗換が便利



<概ね20年後までに実現する主な交通インフラ>



高齢者や障害者などが支障なく安心して移動できる交通体系

(安全・安心)

- 駅ではホームドアやエレベーターが整備されるとともに、病院など生活サービス機能も充実
- 駅前広場の改修によりバス乗り場へ段差が無くなりスムーズに移動

成熟した都市の魅力を実感できる環境にもやさしい交通体系

(豊かさ・環境)

- 地区内への通過交通が排除され、快適で楽しい歩行者空間が実現
- 自転車走行空間が連続的に確保され、広範囲で利用可能なシェアサイクルも実現

現状と課題

主要な交通インフラ

各交通手段は一定程度の水準を達成しているが、より一層の充実が必要

一連の移動に着目

【課題】

駅や交通広場での経路選択や乗換

- バス乗り場の分散や上屋の不連続
- 多言語表記や案内の連続性、Wi-Fi環境の不足



【課題】 道路空間の利活用の工夫

- 道路混雑によるCO₂の排出増大
- 自転車と歩行者の輻輳など事故の危険性



取り巻く背景

- 国際的な都市間競争の激化
- 人口動態の変化
- 環境への意識の高まり
- 防災機能の強化の緊急性
- ICTの進歩などの技術革新
- 都市構造の転換

交通インフラの更なる充実

<鉄道・道路ネットワークの充実>

- ・次期の交通政策審議会答申に基づき、鉄道ネットワークを充実
- ・三環状道路、都市計画道路等の整備推進

<拠点間の円滑な移動の実現>

- ・空港、品川、臨海部、多摩等

<港湾機能の強化>

- ・新客船ふ頭の整備

<首都圏空港の機能強化>

- ・羽田空港と成田空港の容量拡大
- ・空港と一体となったまちづくりの推進

まちづくりと連携した交通結節機能の充実

- 複雑な東京の交通結節点(駅や交通広場等)を利用者が使いこなせるよう改善

新たな取組

駅とまちのエリアマネジメント(駅まちエリマネ)

多様な関係者が、駅や交通広場等の利便性向上を集中的・継続的に協調して実施

～まちづくりと連携した乗継改善の促進策～

- ◆ 新宿、渋谷、池袋など主要ターミナルについて主導(協議体の設置など)
- ◆ 関係者の調整協議を促進(維持管理を支援する規制緩和などをイメージ)



具体的な施策の方向性

交通結節機能の強化

- ・都市再生と連携したターミナル再編(品川、渋谷など)
- ・市街地整備事業による交通広場整備(国分寺等)



<浜松町駅都市再生特別地区>

<国分寺駅北口市街地再開発事業>

円滑な乗換や利便性向上の実現

- ・案内表記の多言語対応や連続性確保
- ・連続した上屋の整備やバス乗り場の集約
- ・経路選択に有効なWi-Fi環境の確保
- ・乗換エレベーターの整備



<コンコースデジタルサイネージ>

舟運の利便性向上

- ・駅から船着場へのアクセス改善

成熟社会にふさわしい道路空間・水辺空間の利活用

<道路空間の利活用>

- 賑わいのある質の高い歩行者空間を創出
- 歩行者及び自転車利用者の安全性を確保した道路空間を実現

新たな取組

区市町村等と連携した地区交通マネジメント

限られた道路空間の最適な利用について合意形成を図り、地区レベルの交通政策を推進

具体的な施策の方向性

歩行者空間の創出

- ・地元自治体や地域団体等と連携して展開(オープンカフェ、荷捌き対応など)
- ・大丸有地区を検討対象とし、他地区へ展開



<大丸有地区のオープンカフェ>

自転車走行空間の確保

- 重要な交通手段である自転車の走行空間について
- ・車道の活用を基本にネットワーク化
- ・区市等の自転車ネットワーク計画策定・実現の支援



<自転車走行空間(旧玉川水道道路)>

シェアサイクルの活用

- ・公共交通を補完する交通手段として活用
- ・相互利用を都心区から展開



<ステーションの配置図>

<水辺空間の利活用> 東京の魅力的な移動空間

羽田空港と都心・臨海部を結ぶ航路の充実



<水辺の賑わいイメージ>